

正しい知識でリチウムイオン電池を安全に使用しましょう

事故はと思ったら防げていたのでしょうか。

リチウムイオン電池搭載製品の気を付けるポイントはこちらです！



リチウムイオン電池搭載製品の気を付けるポイント

1 衝撃を与えない

リチウムイオンバッテリーは外部からの衝撃が加わり、へこむなどすると内部ショートが生じ、発煙や発火につながります。リチウムイオンバッテリーを搭載した製品は小型のものも多く、手をすべらせて落下させたり、ポケットに入れたまま座って体の下敷きにしたりなどして事故となることがあります。外部からの衝撃が加わることをないように注意しましょう。



つぶされたバッテリーの
発火事故の再現

2 リコール対象製品は使用を中止する（不具合が生じていなくても）

リコール対象製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、販売店や製造・輸入業者に連絡をしてください。



リコール情報について
詳しくはこちら▶



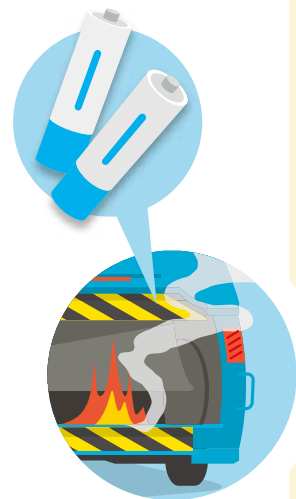
3 •製造事業者、輸入事業者や販売事業者が確かな製品を購入する •非純正品のバッテリーの取扱いに注意する

インターネットで購入したリチウムイオン電池搭載製品の事故が多く発生しています。事故発生後に事業者にお問い合わせようとしても連絡先が不明であったり、海外の連絡先しか表示されていなかったりするものがあります。お使いの製品にリチウムイオン電池が使用されているかどうか取扱説明書などで確認し、記載がない場合は販売店、メーカーに確認してください。また、ノートパソコン等のリチウムイオン電池搭載製品は、製品本体とバッテリーの両方の制御機能で安全かつ最適な機能を実現できるよう設計されています。組み合わせによっては制御機能が正常に働かず事故に至るおそれがあるため、純正品の使用が推奨されます。



4 分解や改造などをしない

リチウムイオン電池搭載製品は、容易にバッテリーパックが取り外せない構造になっているものが多くあります。スマートフォンなどの外装を無理にこじ開けると、バッテリーパックにキズがつき、内部ショートし発火に至るおそれがあります。また、バッテリーパックの配線を改造するような行為も絶対にしないでください。保護回路が正常に働かなくなるなどし、火災につながります。



5 一般ごみなどと一緒に捨てない

一般ごみなどと一緒に廃棄されると、ごみ収集車で圧縮されることで火災につながって、ごみ収集車の破損、付近の住宅への延焼や、清掃局員の方たちのケガ、焼却施設の火災の原因となることから絶対にやめましょう。

＜ 注 意 ！！ ＞

☒ 以下のような状況に該当する場合は、

- ☐ 充電できない。
- ☐ 充電中に以前よりも熱くなる。
- ☐ 外装が膨張し、変形している。バッテリーパックが膨張している。
- ☐ 落とす、ぶつけるなどで強い衝撃を与え、一部が変形している。
- ☐ 不意に電源が切れる。

ただちに使用を中止して、購入店又は製造・輸入事業者の修理窓口にご相談する

☒ 左記以外でも以下の状況に該当する場合は、

- ☐ 車のダッシュボードの上など、高温となる場所に長時間放置する。
- ☐ 水没させる、水が掛かる。
- ☐ 冬場の車内など低温となる場所に長時間放置する。
- ☐ ペットがかみつく、だ液が付着する。
- ☐ 充電用コネクター内部への液体やほこりなどの付着。

使用時に異常が生じるおそれがあるため、取扱説明書を熟読する